

安全上のご注意

商品を安全にご使用いただくために、必ず守っていただきたい事項です。
個々の商品の注意事項は、各商品の説明ページにも記載されていますので、併せてご確認ください。

窓（網戸）、シャッターについての注意事項

⚠ 注意



[強制]

はずれ止めが正しくセットされていることを確認してください。
はずれ止めが正しくセットされていないと、窓（網戸）がはずれて落下し、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

風が強い時は窓を閉め、必ずロックしてください。
ロックしないと、窓が風で急に開閉し、窓の破損や落下により、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

窓（網戸）にぶつかったり、寄りかかったり、無理な力をかけたりしないで
ください。窓（網戸）の破損や落下により、思わぬ事故やけがにつながる
おそれがあります。



[禁止]

窓（網戸）の取り付け、取りはずし、調整、お手入れをする以外は、
お掃除モードにしないでください。
窓（網戸）の破損や転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

ハンドルなどにぶらさがって遊ばないでください。
ハンドルなどが破損し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。
特にお子様にはご注意ください。



[強制]

ベッドや机などを配置する場合は、踏み台にならないよう配慮してください。
また、踏み台になるような物がある場合は、小さなお子様が一人で窓を開け
られないよう配慮してください。
転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

窓やシャッターの表面や金属部分は、直射日光で熱くなることがあります。
やけどなどしないようご注意ください。



[禁止]

シャッターボックスに乗ったり、はしごをかけたりしないでください。
無理な力をかけると、シャッターの破損や転落など、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

強風や大雨の時は、シャッターだけでなく内側の窓も閉め、
必ずロックしてください。シャッターの破損などにより、室内に風や雨が
入り、家屋や家財の損害につながるおそれがあります。

お願い

外出や就寝の際は、必ず窓を閉め、確実にロックしてください。
ロック後、窓が開かないことを確認してください。

窓の近くを通る時は、開いている窓や部品にぶつからないようご注意ください。
窓の破損につながるおそれがあります。

シャッターを無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
シャッターの破損や故障につながるおそれがあります。

シャッターの開閉時の注意事項

⚠ 注意



[強制]

シャッターを閉める際は、周囲に人や物がないことを確認してください。
手や足、物のはさまるなど、思わぬ事故やけがや、物の破損につながるおそれがあります。



[禁止]

シャッターを開閉する際は、開閉位置に手や足を出したり、下枠に物を置いたりしないでください。
手や足のはさまれるなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

シャッターの開閉中に下を通らないでください。
体をはさむなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

操作ロープを使用する際は、強く引っ張らないでください。
操作ロープが切れて転倒するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

外出の際、内側の窓を施錠していない状態でHEMS 機器で開操作をしないでください。
外から侵入されるおそれがあります。

お願い

ガイドレールや下枠に物が置かれていないことを確認してから開閉してください。
物がはさまると、シャッターの破損や故障の原因となります。

リモコンシャッター (GR 含む) の場合、停電などで一旦電源が切れると、シャッターの全開・全閉の停止位置設定がリセットされます。
シャッターの全開・全閉の停止位置設定は、通常シャッター開閉操作を行うことで、自動設定されます。電源復帰後、必ず「開 (ひらく)」操作から行い、全開にしてください。
「閉 (とじる)」操作から行くとシャッターの破損や故障の原因となります。

操作ロープをシャッターに貼り付けたまま開閉しないでください。
シャッターに操作ロープが巻き込まれ、シャッターが下ろせなくなったり、破損したりするおそれがあります。

シャッターの端部を持って開閉しないでください。
端部を持って開閉すると、シャッターが片寄り、破損や故障の原因となります。

シャッターボックス内部には、駆動装置や電子ユニットが組み込まれています。
清掃の際、駆動装置や電子ユニットに水がかからないようご注意ください。
水がかかると破損や故障の原因となります。

シャッターを短時間で繰り返し開閉しないでください。モーターの保護装置が作動し、一定時間動作が停止します。(故障ではありません)
20 ~ 30 分程度間を置くと開閉操作が可能になります。

シャッターを閉めた時は、防犯性を高めるため、手動錠 (リモコンシャッター (GR 含む) の場合はオプション) や内側の窓も必ずロックしてください。

シャッターを開ける際は、手動錠が解錠されていることを確認してから行ってください。
手動錠を施錠した状態で開けると破損や故障の原因となります。

シャッターが凍結した場合、解けるまで開閉しないでください。
無理に開閉すると、シャッターの破損や故障につながるおそれがあります。

オプションリモコンでの一斉操作やタイマー操作、HEMS 機器での操作など、シャッターが見えない位置から操作した場合は、正しく作動したことを確認してください。

標準リモコンは、各シャッターの周辺に設置してください。
オプションリモコンでの一斉操作やタイマー操作、HEMS 機器での操作など、シャッターが見えない位置から操作した際、シャッターの周辺にいる人が意図しない操作に対して、すぐに標準リモコンで操作するためです。

シャッターのリモコンについての注意事項

⚠ 注意

リモコンスリットシャッター GR / リモコンシャッター (GR 含む)



[禁止]

リモコンを、分解、改造しないでください。
リモコンの破損や誤作動により、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。
リモコンを改造すると法律により罰せられることがあります。
※リモコンは、総務省の技術基準適合品です。(㉿マーク)

お願い

頻繁にリモコンのボタン操作を行わないでください。
一次的に送信できなくなることがあります。
これは、特定小電力無線設備(※)の使用制限によるもので故障ではありません。
一時的に送信できなくなりますが、ボタン操作を行わない状態で2秒以上経過すると、休止が解除され、リモコン操作ができるようになります。

※特定小電力無線設備について
送信時間(連続または継続のボタン操作)が5秒に達すると、自動的に2秒間の休止時間が設けられています。

リモコンを落としたり、濡らしたりしないでください。
リモコンの破損や故障の原因となります。

標準リモコンは、下記の場所では設置および使用しないでください。
絶縁不良による誤作動や、故障の原因となります。

- 屋外や屋内の湿気の多い場所(浴室など)
- 直射日光の当たる場所や、熱源に近い場所(暖房器具のそばなど)
- 腐食性ガスおよび可燃性ガスが発生する場所
- 薬品を常時使用する場所

リモコンスリットシャッター GR / リモコンシャッター (GR 含む) の非常開放時の注意事項

⚠ 注意



[強制]

非常開放操作は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
手や足をはさむなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

リモコンスリットシャッターGR の場合、
非常開放レバーを操作する際は、シャッターに触れないでください。
シャッターが全閉の場合、シャッターが急激に巻き上がり、思わぬ事故や
けがをするおそれがあります。



[強制]

非常開放レバーの操作時に、指をはさんだり、爪を損傷したりしないよう
ご注意ください。けがをするおそれがあります。

お願い

非常開放操作は、非常時以外は行わないでください。
リモコンスリットシャッターGR は、シャッターが全閉の状態で作ると、
大きな音が発生します。
動作確認をする際は、座板を下枠から少し上げた状態で行ってください。

手動シャッター GR / リモコンシャッター GR の耐風ポール（オプション）の注意事項

⚠ 注意



[禁止]

ベランダのない2階などに設置されている場合は、耐風ポール（オプション）の脱着をしないでください。誤って耐風ポールを落下させると、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

お願い

耐風ポール（オプション）を移動して保管している場合、台風などに備える際は、耐風ポールを中央に設置しなおしてください。

窓（網戸）、シャッターの調整・お手入れ時の注意事項

警告

[禁止]

リモコンの電池交換の際は、はずしたコイン形リチウム電池を放置しないでください。小さなお子様が、コイン形リチウム電池を飲み込み、化学やけどや粘膜損傷など、重大な事故やけがにつながるおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



[禁止]

はずしたネジは放置しないでください。そのままネジを放置すると、小さなお子様が飲み込み、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

注意

[強制]

お手入れなどで、窓（網戸）をはずして再び取り付ける際は、必ずはずれ止めをセットしてください。正しくセットされていないと、窓（網戸）がはずれて落下し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

窓をお掃除モードで放置したり、無理な力をかけたりしないでください。窓が破損し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。窓（網戸）シャッターにぶつかり、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

お手入れの際、窓（網戸）の端部や部品の角、加工部にご注意ください。指や手を切ったり、はさんだり、巻き込まれたりするなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

浴室に窓を設置した場合、室内側から大量の水をかけないでください。漏水につながるおそれがあります。

お願い

お手入れ時に、誤って室外に転落しないようご注意ください。

不安定な台の上などで作業を行わないでください。

調整・お手入れ時に、誤って窓（網戸）を倒したり、落下させたりしないようご注意ください。

指定されたネジ以外は絶対にはずさないでください。万一、はずしてしまった場合は、すぐにネジを付けてください。

電池についての注意事項

⚠ 危険



[強制]

電池から漏れた液が目や皮膚に付着した場合は、すぐに水道水でよく水洗いして、医師の治療を受けてください。失明や化学やけどなど、重大な事故やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 警告



[強制]

コイン形リチウム電池は、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。小さなお子様は、コイン形リチウム電池を飲み込み、化学やけどや粘膜損傷など、重大な事故やけがにつながるおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



[禁止]

電池の (+) と (-) を逆にして使用しないでください。電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄の異なる電池を混ぜて使用しないでください。特性の違いにより、電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

電池を火の中に入れてたり、加熱、分解したりしないでください。絶縁物などが損傷し、電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

長期間使用しない場合や、使い切った電池は直ぐに機器から取り出してください。そのまま放置すると、電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 注意



[禁止]

電池を落下させたり、強い衝撃を与えたり、変形させたりしないでください。
電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

電池を水などで濡らさないでください。
電池が発熱するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

電池が入った機器を高温の場所で使用、放置しないでください。
電池が発熱、液漏れ、破裂、発火するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

電池を廃棄する場合は、お住まいの自治体の条例に従って廃棄してください。

お願い

電池の種類は、商品仕様をご確認ください。(充電式電池は使用できません。)

ご使用にあたって

商品を長く正常な状態でご使用いただくために、日常生活の中で気をつけていただきたい事項です。

●窓やドア・引戸、網戸の点検について

長期間、窓やドア、引戸をご使用になると、ネジのゆるみが発生することがあります。お手入れの際、商品のネジ部品がはずれたり、ゆるんだりしていないことを点検してください。(→ P.359「第6章 保守点検」)

●シャッターの点検について

長期間シャッターをご使用になると、部品の摩耗や劣化、汚れにより、開閉しにくくなる場合があります。定期的に清掃、点検を行ってください。(→ P.359「第6章 保守点検」)

知っていただきたい現象

第1章

安全にお使いいただくために

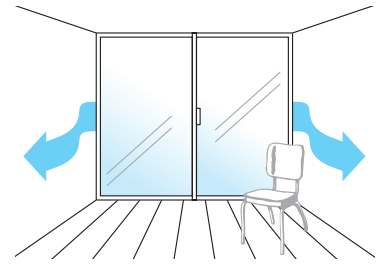
日常生活の中で『何かおかしいな…』と感じることがある現象も、窓の不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。

ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

窓を閉めきった時のすき間風

窓を閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓にはパッキンなどの気密部品を取り付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分からすき間風が発生します。これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓の接触部分から空気が入ることがあります。



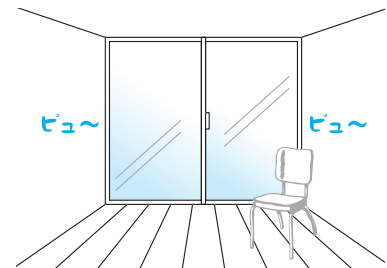
窓の笛鳴り現象

窓を閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されると共に、同じ量の空気が窓のすき間などから室内に入り込もうとします。

気密部品と枠または窓の接触部分を通り抜ける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こします。これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、この現象は窓各部分の調整が不十分である時にも生じますので、調整をお願いいたします。

なお、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける所においても笛鳴り現象が起こることがあります。



結露について

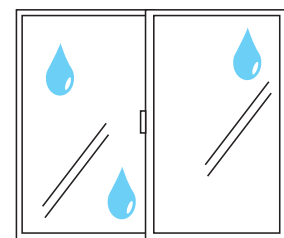
結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合、季節を問わず発生します。

これは自然現象のひとつであり、窓の不具合ではありません。

また、室内の環境状況によっては、断熱窓を使用しても発生する場合があります。

完全になくすことはできませんが、できるだけ発生を抑える方法として下記の点を心がけてください。

- ① 過度な加湿の防止（上限 60%）
- ② 換気の促進
- ③ 室温を適温に保つ
- ④ 空気の流れをよくする



『脱・結露のススメ』というパンフレットをご用意しております。

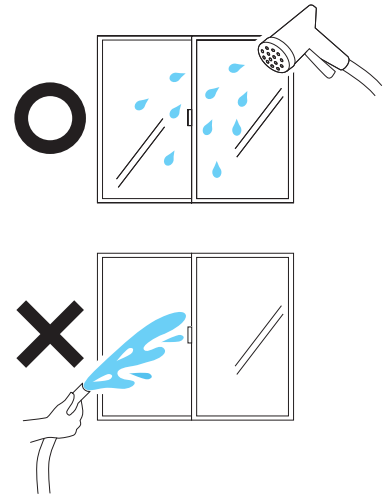
ご要望の方は当社お客様相談室までご連絡ください。（☎ 0120-20-4134）

片引き窓、引違い窓、引違いテラス戸の下枠の雨水たまりについて

片引き窓、引違い窓、引違いテラス戸の下枠に雨水がたまることがあります。これは、窓の水密性能を保持するために構造上必要な状態であり、不具合ではありません。

清掃時の散水による水侵入について

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓にはパッキンなどの気密部品が付いています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓と枠すき間を完全に密閉するものではありません。清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。



ガラスの熱割れについて

ガラスは熱によって膨張する性質を持っているため、直接日射を受ける部分と窓枠などの中に隠れている部分とで、温度の差による熱膨張差が生じます。この熱膨張差がガラスの持っている「強度」を超えた場合、ガラスが割れます。これが網入りガラスに多く見られる「熱割れ」と呼ばれる現象です。ガラスに割れが発生した場合、すみやかに交換してください。

熱割れを予防するポイント

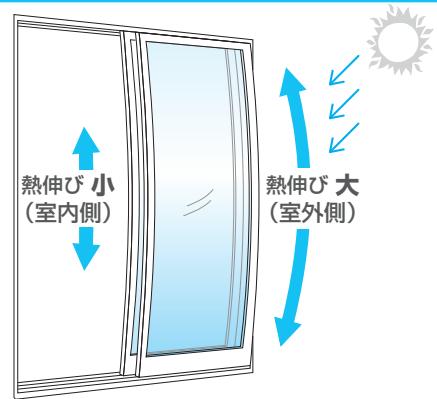
- ガラス面にカーテンやブラインドを密着させない。
- 暖房・冷房の温風・冷風をガラスに直接当てない。
- ガラス面に紙を貼ったり、ペンキを塗ったりしない。
- 室内に熱だまりを作らない。

ガラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇った時など、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってあるラベルの跡が浮き出てくる場合があります。これは、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

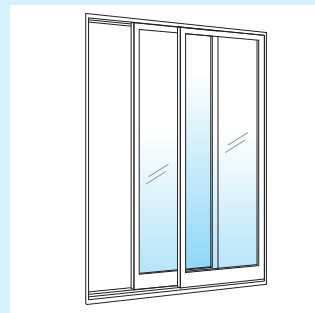
真空トリプルガラスの熱反りについて

真空トリプルガラスは室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ガラス本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。また立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。一時的な現象であり、ガラス本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。特に、内外の窓が同じ位置で重なり合う状態では、窓の間に熱がたまり、異常な高温状態となる場合があります。



熱反りを予防するポイント

- 日中、引違い窓等を開け放して使う際は、2枚の窓が完全に重なり合わないよう、ずらして使用する。



複層ガラス・真空トリプルガラスのゆがみについて

ガラス表面に反射して映る映像がゆがんで見えることがありますが、中空ガラスの構造上避けられない現象です。

複層ガラス・真空トリプルガラスの中空層は密閉された構造のため、温度や気圧の変化などによって内部の空気の収縮や膨張が起こります。これにより、ガラスが湾曲しガラスの表面に反射して映る映像がゆがんで見えます。

扉表面の白亜化現象（チョーキング）について

玄関ドア・玄関引戸などの扉表面材はカラー鋼板（表面に樹脂塗料を塗布し、意匠性を高めた鋼板）を使用しているものがあります。これらの商品は、ご使用いただいている間に紫外線、風、熱、雨、など様々な環境要因によって少しずつ色や艶があせて、建物の外観に即した落ち着いた風合いになっていきます。

さらに長い期間が経過すると樹脂塗料の塗膜が劣化して白っぽいチョークの粉をふいたような状態になることがありますが、これは白亜化現象（チョーキング）と呼ばれている、カラー鋼板の特性による経年劣化です。

経年劣化による白亜化現象（チョーキング）の進行を遅らせるポイント

- ドアの表面に付着した汚れを早めにお手入れする。

防火商品の白い結晶について

商品の特性上、結露水などにより窓やドアの表面に白い結晶が発生する場合があります。この白い結晶は無害であり、水拭きで拭き取ることで除去できます。

ステンレスのさびについて

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成されます。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れると酸素との接触が妨げられ、さびが発生することがあります。

特に下記のような場合は、さびが発生しやすくなります。

- 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合（もらいさび）など

さびが発生した場合は、台所用クレンザー、市販のステンレス用清掃薬剤などでこすり落としてください。この場合表面にこすりキズがつくことはさけられません。「もらいさび」が落ちない場合は、さびが進行しステンレス自身にさびが生じたものと考えられます。

さびを予防するポイント

- 一旦発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤（1～2%の水溶液）で、こまめにお手入れをする。

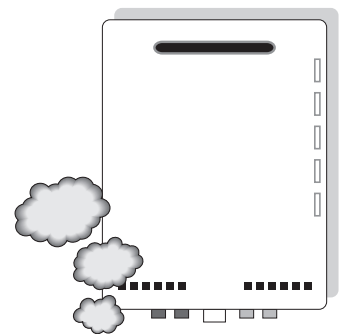
ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について

ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。

ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があります、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。

これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下のアルミに達し、アルミとの化学反応によって塗膜のはがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。

また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接当たらなくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。



腐食を予防するポイント

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにする。
- 排気口近辺にアルミ製品を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

樹脂製商品への殺虫剤散布によるひび割れ、はがれについて

薬剤が付着すると、ひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

ひび割れ・はがれを予防するポイント

- 殺虫剤などの薬剤を樹脂表面に塗布・散布し付着させないように注意する。

ブラインド入複層ガラスの低温時の角度調整について

冬季、気温が低くなると、ブラインドの角度調整がしにくくなることがあります。これは、気温が低くなるとガラスが内側に反るなどの要因で起こるもので、不具合ではありません。ガラスの反りは室温または外気温が上がることで元にもどります。

ブラインド全閉時のすき間について

ブラインド全閉時、スラットとスラットの重なりは、均一にはなりません。また、全閉の場合は、若干のすき間が残り、完全には閉まりません。

シャッターおよび雨戸からの光漏れについて

シャッターおよび雨戸を閉めても、外からの光を完全に防ぐことはできません。遮光カーテンなどを併用してご使用いただくことをお勧めしています。

シャッターから落ちる水滴について

シャッターが雨などで濡れている場合、水滴が落ちることがありますので、ゆっくり開閉してください。

シャッター一斉操作の作動開始のタイミングについて

一斉操作を行った際、シャッターが作動し始めるタイミングにズレが生じることがあります。シャッターとリモコンが1台ずつ通信を行っている為で、異常ではありません。

通風雨戸の操作力について

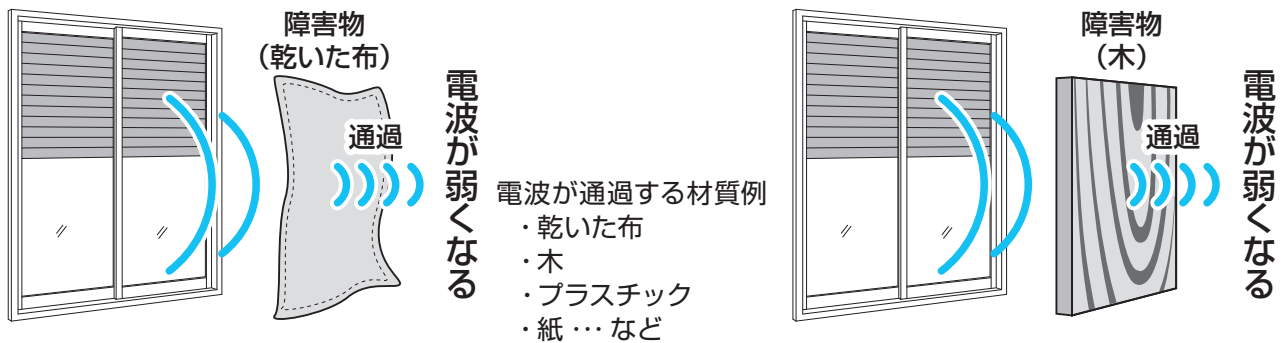
雨戸のルーバー部分が雨などで濡れている場合、開閉時の操作力が大きくなる場合があります。これは、ルーバーと水滴との間に表面張力が働くことにより起こるもので、異常ではありません。ルーバーに付着した水滴が乾くことで元に戻りますが、シリコンスプレーを塗布してご使用いただくことをお勧めしています。

電波の特性について

リモコンとシャッターの間に障害物が多いと、リモコンを操作してもシャッターが動かない場合があります。

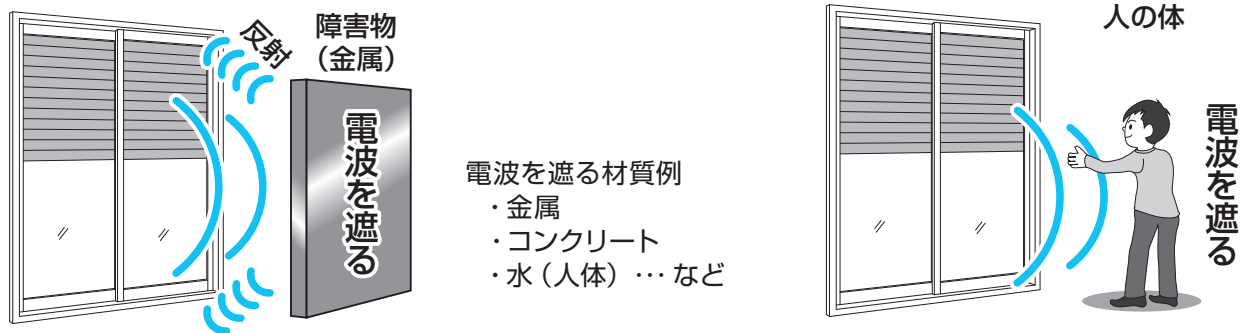
● 電波は、障害物（乾いた布や木など）を通り抜ける

電波は、障害物の材質によっては通り抜けることができます。ただし、障害物を通り抜ける度に弱くなる特徴があります。



● 電波は、障害物（金属やコンクリート、人の体など）によって遮られる

電波は、障害物の材質によっては遮られることがあります。

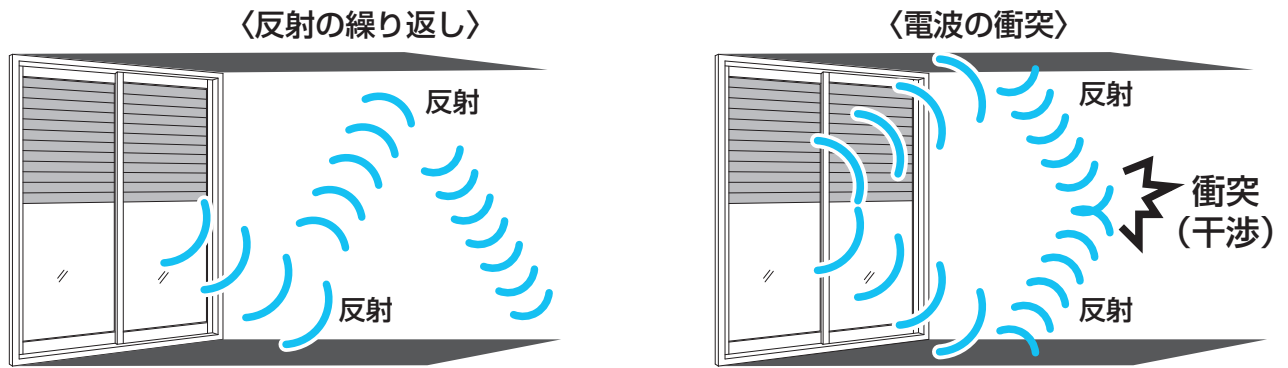


※ 特に金属は電波を反射しやすく、電波を遮断します。

※ 電波を遮る材質・素材として「水」もあります。60%以上が水分と言われる人の体も、電波を遮る障壁となります。

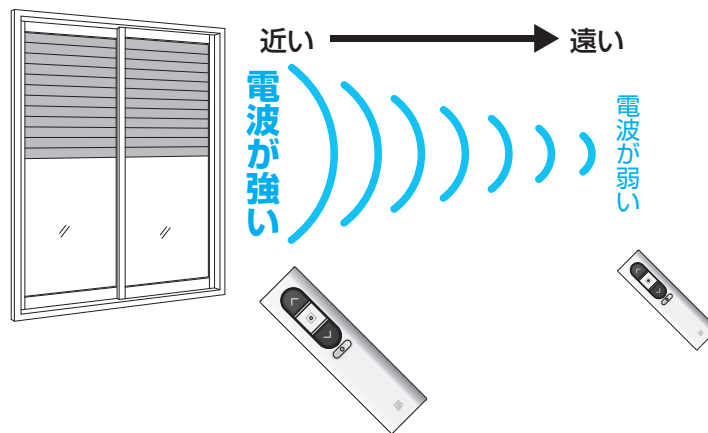
● 電波は、建物などに反射する

電波は、建物の壁や天井、地面などの障害物（特に金属）にあたると反射します。障害物や電波の周波数によって反射の仕方は変化し、複数方向へ乱反射することもあります。ただし、電波は反射を繰り返すことでだんだん弱くなります。また、反射した電波同士が衝突し、弱くなることもあります。



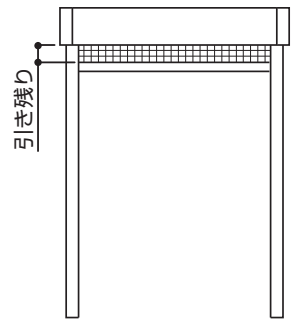
● 電波は遠くなるほど弱くなる

電波は、基本的に届くまでの距離が遠くなるほど弱くなります。



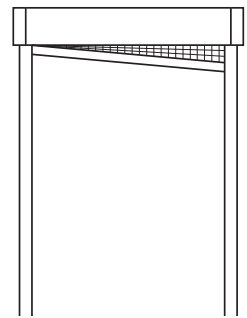
上げ下げロール網戸の引き残りについて

網戸全開時、操作ひものボールピッチにより引き残りが発生します。引き残り量は個体差や使い方により一定ではありません。これは商品の構造上の特性になります。完全になくすることはできませんが、網戸の引き残りを少なくすることができます。詳細については、P.275「引き残りの軽減方法」を参照してください。



上げ下げロール網戸の片下がりについて

網戸全開時、ネット左右の巻き径に差異が生じ、片側が下がること（片下がり）があります。これは商品構造上の特性になります。完全になくすることはできませんが、網戸の片下がりを少なくすることができます。詳細については、P.272「片下がりの調整方法」を参照してください。



網戸からの虫の侵入について

網戸を使用している場合でも、虫の大きさや種類によって完全に侵入を防ぐことはできません。

ロール網戸の使用中のしわ、折れ目、たるみについて

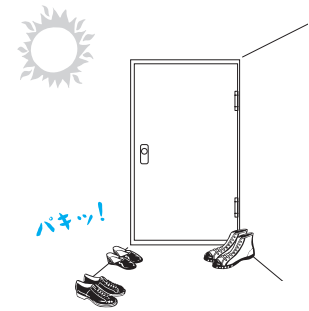
ロール網戸を使用中、しわ、折れ目、たるみが発生することがありますが、商品の性能には問題ありません。ロール網戸の構造上避けられない現象です。

玄関ドアなどからの音鳴り現象について

玄関ドア・引戸は表面積が大きいので、太陽光を直接受ける室外側と、受けない室内側で温度差が生じやすくなります。

この温度差に伴い室内外面にわずかなゆがみと、たて横・大小の構成部材間で異なる熱膨張とが重なって摩擦が生じ、異音が発生することがあります。これは気温・立地条件・季節・使用材料の特性などの違いにより起こります。玄関ドア・引戸の不具合によるものではありません。

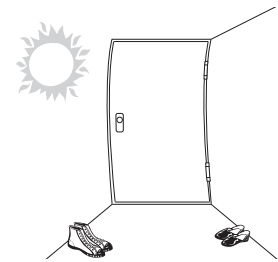
音は陽が高くなって外気温が上がったり、陽がかげると自然に止みます。



断熱ドア・引戸の熱反りについて

断熱ドア・引戸は室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ドア・引戸本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。

また立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。一時的な現象であり、ドア本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。



玄関ドアなどからの雨水浸入について

強風雨時など、ドア・引戸から雨水が浸入することがありますが、商品の不良ではありません。玄関はポーチ屋根により通常の風雨は防げますが、濡れたり、汚れた靴で入ることを想定して土間仕上げとなります。居室に使用される窓と同等の水密性能は、玄関には施されていません。

また、ドア・引戸のロック機構は、窓に採用されているような枠と窓を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ構造にはなっていないのが一般的です。



玄関ドア・引戸の表面温度について

商品をご使用中、ドア全体が熱くなることがありますが、これは玄関ドア本体に長時間直射日光が当たることによる表面温度の上昇です。ドアの表面やハンドル等で特に、ブラック・ブラウンなど色の濃い商品ほど表面温度が上昇します。直射日光が強い時間帯はやけどをするおそれがありますので、開閉の際はご注意ください。

